

「松ヶ丘の点景 No.33」 R8.2.4

本日、島根県西部県民センターの石見地域振興部商工振興課が主催する、「翔陽生のための地元企業セミナー」が5・6 時間の 2 時間を使って、1・2年全生徒並びに保護者、教員を対象として実施されました。この事業は、①「地元石見の企業」を身近に感じ、地元企業について理解を深める。②企業の取り組みから地域の魅力や課題を学び、進路選択に生かす機会とする。③様々な職種に興味を持ち、進路選択の幅を広げる。という3つの目的を持った事業です。

つまりこのセミナーは、高校生の地元就職を促進するために、地元企業が高校に出向いて企業説明を行い、それを生徒が聴いて知る・興味を持つという、いわば「生徒と企業の集団お見合い」のようなものです。今年は益田市内を中心に企業展開されている本校 4 科に関連する、製造・電気・サービス・農林業・建設・保育・医療・福祉・小売り業他の計 28企業様が参加され、生徒 225 名が興味のある各社のブース(教室)に移動(4 セット(社))して説明を聴きました。

令和8年は昭和100年、戦後80年と言われます。かつて昭和30年代後半、日本は戦後復興をかけて高度経済成長期を迎えた中卒の若者が、「金の卵」として都会地の貴重な働き手として向かい、肉体的にも精神的にも厳しい日々を送り、現在の日本経済の土台を築きました。

そしてその半世紀後、「少子高齢化」の波が全国で見られ、特に地方での人口減少が顕著で社会問題になっています。一方で全国の出生率が低い地域の傾向はどうでしょうか。

本校に確かな目的を持って進学し、それぞれの専門教育を受けた「将来の」産業人となるであろう本校の生徒は、本当の意味で「地域の金の卵」です。その大切な卵を育てることが本校のミッションです。(J)



*各説明会場の様子

